

第32回 知恵は使うもの

IT生

最近みないなあ、と思う玩具がある。昔よく、駄菓子屋でみた、知恵の輪。そのせいか、世の中も諸事、知恵のないはなしが多い。悪知恵も、すぐばれるので、知恵になっていない。

知恵がわくのは、小手先ではなく原理原則を理解しているからだと思っている。原理原則を理解するためには、考え抜くという思考の体力がいる。古今東西そうである。解説書や攻略本があるゲームでは思考の体力はつかない。そんなものがない、素朴な知恵の輪だから鍛えられるのである。



右側の車道の通行止めをほぼすることなく、進められた堤防の強化工事。工事は堤防の幅で行われ右側の砂浜への影響も少なかった

過日、この「知恵の輪を解く遊び」が好きな人と、であった。振動や騒音のない静かな杭打ち機を発明した人である。なぜ、発明したか。本人はニュートンのりんごだという。

その人は、工事の請負業者として、杭打ち機の騒音、振動に悩まされていた。怒った住民に追いかけ回されること日常茶飯事であったという。あるとき、現場で、杭を引き抜く作業をなにげなくみていた。すると、杭が抜けずに、引き上げるために杭の上部の穴に通されていたワイヤが、杭を引き裂いてしまった。それをみて、地中の地層が杭に密着する力に驚いたという。それを逆手にとって、抜けない杭の抗力をもって、杭を押し込むシステムを開発したのだ。この原理だと、杭をたたく必要がないから、騒音も振動もない。杭に大きな力を加える必要がないから、杭打ちの機械はどんどん小さくなる。100トンの圧をかけるのに6トンの機械でいいらしい。もっと機械を小型化できるという。機械が小型化ということは、工事の範囲もコンパクトになる。つまり、津波対策に不可欠な堤防を工事するのに、通行止めをする必要がなく、生物が多く生息する周辺環境への影響も最小限にすむ。既存の堤防を強化するだけだから、以前の風景とかわりがない。そんな工事が、太平洋沿岸部で、文字通り静かに進行している。

こればかりは、寺田寅彦師も思い及ばなかつただろう。くだんの人は、「必要は知恵の母」と社員に説いているという。複雑に利害とシステムがからみあった現代社会では、「必要」をみつけることすら困難なのであるが、そのことすら気づいていない国民が多いから、防災も進まないのである。

(平成 30 年 3 月)